

共栄大学にきてよかった。 そう思ってもらえる、 心震わせる4年間に

共栄大学 学長 山田和利

まとめ／堀水潤 撮影／中岡邦夫



【学長プロフィール】1963年生まれ。東京大学大学院法学政治学研究科修了。松下政経塾出身。富士総合研究所(旧富士銀行、現みずほ銀行)、住信基礎研究所(住友信託銀行)を経て、2001年より共栄大学。05年国際経営学部学部長。09年より現職。

【大学プロフィール】共栄学園短期大学を母体に2001年設立。国際経営学部国際経営学科(ビジネスキャリアコース、観光ビジネスコース、会計ファイナンスコース、スポーツマネジメントコース)のほか、11年度、教育学部教育学科を設置予定。

文科省の担当者によれば、私は学長就任時では、全国で2番めに若い学長だそうです。当時40代半ばの私が選挙で選ばれたのは、大学をとりまく環境が厳しいなか、変化が求められたから。勇気をもって前に進もうとする意志の表れだったと思います。

RB(リアルビジネス)という産学連携の実践教育は、そうしたなかで始めたもの。海外ウエディングツアーを学生がプロデュースする「共栄ワールドラン」や、プロ野球Jリーグチームとコラボレーションする「共栄スポラス」に取り組む学生の表情は真剣です。新郎新婦や観客をはじめ多くの関係者がかかわるイベントですから、想像以上の力が発揮され、心からの感動が生じるのです。

銀行出身の私がこの世界に入って間もなく、上場企業に就職した教え子がありました。開学間もない時期でしたが、就活中は不安もあり、悔しい思いもしたことでしょう。そのとき私の教育者としての決意と覚悟が生まれました。共栄大学に来てよかったと心から思い、誇りをもって卒業させたい。それには、何かに本気で打ち込み、感動を体験してもらうことだと。RBもその一つ。著名人やプロチームに話を持ち込んだ際は、幸い銀

行時代の人脈が生まれました。部活動においては、学生に生き様まで伝えられる有能な指導者がほしいとスカウティングに足を運びました。とにかく感動、誇り、充実感……。そうしたものが肌で感じられる、心震わせる4年間にしたいのです。

私のゼミでは毎年、4年生の追い出しコンパに卒業生が何十人も駆けつけてくれます。遠方からやってきて、「社会人は何より時間管理が大切」と言いながら後輩にダイアリーをプレゼントするかつての教え子の姿には心打たれます。

教育で一番大事なのは情熱と志です。教員に「生付き合うぞ」という覚悟があれば、学生は必ずついてきます。良い教員に触れば、その志が受け継がれるはず。来年度、本学では教育学部を新設します。学部長の藤田英典先生は情熱にあふれた人。新学部でもRB同様、教育委員会などと連携をしつつ実践的な企画を用意しています。小学校時代は人格が形成される大切な時期。現場からは、音楽やスポーツなど芸に秀でたものがあると、子どもたちとの間合いを詰めることに役立つと聞いています。そのためクラブ活動も一層盛んにする予定です。自信のある分野を伸ばし、子どもたちを魅了してほしいと思います。